2026
vol.65
March

山形市男女共同参画情報紙

ファーラ Fala

P2　変革の現場から
～ジェンダー平等の最前線に立つ女性に聞く～

P4　Z世代高校生起業家の挑戦
～合同会社山形探究～

P6　女性人材育成事業
「まち、わたし、きらめく Women's Campus 山形」

P8　「男女共同参画に関する一行詩」
審査結果

『ファーラ』は、
山形市男女共同参画センターの愛称です。
『ファーラ』Falaとは、
Female（女性）とala（翼）を
組み合わせた造語です。



変革の現場から
～ジェンダー平等の最前線に立つ女性に聞く～



山形県出身。山形大学大学院理学研究科修士課程修了。高校の理科・生物教員として教壇に立ち、生徒指導など様々な分掌を担当後、校長として学校運営を担う。2021年から現職。現在は大学の男女共同参画及びダイバーシティの推進に取り組むとともに、ジェンダーやＤＥＩをテーマとした講演会や研修会の講師を務め、男女共同参画の推進に尽力している。

山形大学
学術研究院 准教授
ダイバーシティ推進室 副室長
柿﨑 悦子さん

※この記事は2025年11月に取材した内容です。

ジェンダーや男女共同参画に関わるようになった原点を教えていただけますか？

小さい頃から、自然の中での遊びを通して、植物や虫などの生き物、天体や気象などの自然現象、また機械などの仕組みに興味を持っていました。高校の授業で学んだ遺伝子のデオキシリボ核酸（ＤＮＡ）の構造の美しさに心を奪われ、生物学科に進むきっかけとなりました。

しかし、当時は女子の大学進学率が12％程度にとどまり、理数系進学への社会的理解も十分ではありませんでした。私はその現状に疑問を感じていました。

当時、大学に国立遺伝学研究所から講師がみえられ、そのお話をとても興味深く聞きました。しかし、大学院修了後の就職活動では、女性であることを理由に応募すら叶わない企業も多く、厳しい現実に直面しました。

それでも、生物学への情熱が失われることはなく、「生物の魅力を次の世代に伝えたい」と思うようになり、教育の道へ進むことを決意しました。こうした経験の積み重ねが、現在のジェンダーや男女共同参画への問題意識につながっています。

教育現場で、特に大きな壁を感じた瞬間はありましたか？

教育の現場では、男女平等が理念として共有されていますが、必ずしもそうでない場面もありました。特に、無意識の偏見（アンコンシャス・バイアス）は、教育現場にも存在していると感じています。

例えば、女性の教員は、家庭との両立に苦労していましたし、キャリアアップの研修の機会を得られないこともありました。また、生徒の間でも、学校の代表や意見発

表、役割分担などにおいて、無意識のうちに男女差が生じることが見受けられました。

こうした状況に向き合う中で、私は一つの見方にとらわれず、多角的に物事を捉えることを大切にし、一人ひとりが持っている力を引き出すにはどのようにしたらよいか、皆さんと考えるようになりました。もちろん、うまくいかない時もありますが、おいしいものを食べて寝て、再チャレンジです（笑）。

学生や地域の方々と関わる中で、社会の変化を感じる瞬間はありますか？

社会の変化とともに人々の価値観も多様化し、教育では個別最適化された学習が取り入れられています。その中で、地域間の教育機会（体験）の格差もあります。塾や文化的教育施設の有無、そこでの学びの機会があるかどうかなどです。また、高校生や大学生はSNSを多用していますが、実際の人間関係では、自身の考えを表現することのハードルが高く、失敗やリスクを恐れる傾向も見られます。

人の成長というのは、社会の変化に影響を受けるかもしれませんが、心身の成長過程は昔も今も本質的に同じです。だからこそ、技術に流されず、一人ひとりを丁寧に見る教育が必要です。特に個別面談は重要です。多様性についての学びには、大学の男女共同参画やジェンダーに関する知見を教育現場に丁寧に橋渡しすることが私の役割だと考えています。

これからの課題と、地域・大学に求められることは？

地域には多くの優れた教育機関・研究の知見があります。それを地域社会に還元していく仕組みが必要です。本学では地域と共にある大学として様々取り組んでいます。ダイバーシティ推進室でも、地域の高等教育機関等と一緒に女性教員の活躍を支援しています。これらの取り組みが地域の皆さんに理解していただけるよう講演会や研修会などを通じて話していきたいと思います。

今、人口減少について様々な議論があります。減少を止めることは容易ではありません。多様な取り組みが必要で、制度だけではなく、意識改革が欠かせず、アンコンシャス・バイアスについての取り組みには時間を要しますが、継続することに意味があります。「これから働く女性」だけでなく、すでに働いている女性が能力を発揮し続けられる環境を整えることも重要です。

また、山形においては、第一次産業を支えることが未来の生活基盤を築くうえで不可欠です。自然環境や先人たちへの感謝の心を育み、この豊かな山形の環境を誇りとして次世代へ継承していくことが、持続可能な社会につながると考えています。

次世代へのメッセージをお願いします

若い方が、都会に憧れ、夢を追いかけたいと思う気持ちは自然で、大切なことです。その一方で、夢と地元をどうつなげていくかは、今後の大きな課題でもあります。地元の良さを知り、誇りを持って生きてほしい。そして、全国どこにいても、ふと地元を思い出せる心を忘れないでほしいと思います。ライフステージの変化に直面したとき、立ち止まって考える力も大切です。山形市で行われている男女共同参画の取り組みを通して、山形市で活躍する女性たちが高校生とつながり、ロールモデルとなりつつ、それぞれ活躍の場を広げていけたらと願っています。

伝えたいのは、チャレンジすること、考えることをあきらめないことです。AIはあくまでツールです。それを駆使しながらも、経験を積み、具体的に考え、しなやかに生きてほしいと思います。しなやかさとは、自分の「好き」を大切にしながら、他者への寛容さを持つことだと考えます。日々の小さな出来事の積み重ねが、道を開く力になります。

「皆さんには、道はひらかれている。無限のいろいろな可能性がある。」

取材を終えて

いろいろな困難に直面しながらも、それを乗り越え、時代の流れを柔軟に受け止めつつ、明るく教育に向き合ってこられた姿に深い敬意を覚えます。教育するという重い責任を自覚し、多方面からの考え方を取り入れ、実践してきた先生は教育の先駆者と感じました。生物学という専門性を携え、これからも新たな視点でのご活躍を心から楽しみにしています。

（編集協力員　大津　藤子）

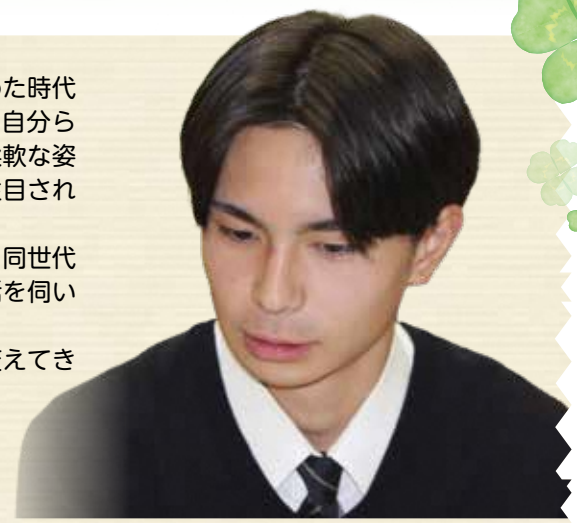
Z世代高校生起業家の挑戦

～合同会社山形探究～

スマートフォンやＳＮＳが日常に広まり始めた時代に育った、デジタルネイティブの『Z世代』。自分らしさを大切にしつつ、社会貢献や多様性への柔軟な姿勢を持つ彼らは、可能性あふれる世代として注目されています。

今回は、高校生でありながら起業し、地域と同世代をつなぐ活動を続けている森谷条治さんにお話を伺いました。

年齢や肩書きにとらわれず、疑問を行動に変えてきた森谷さんの姿から、これからの学びや働き方のヒントを探ります。



高校生起業家

森谷 条治さん

『合同会社山形探究とは？』



2024年６月設立。活動の内容は、山形県内の高校生が、地域企業や大人と連携しながら探究活動を進めるための応援・サポートを行う。

会社HP

Instagram

YAMAGATATANKYU_INC

※この記事は2025年11月に取材した内容です。

これまでの活動を教えてください

・高校生×不動産（高校生による古民家をリノベーション）
・留学体験共有イベントの企画・運営
・山形まちなか文化祭の運営サポート

など、県内企業と高校生をつなぐ架け橋になっています。

さらに、自社ウェブサイト「ヤマガタスタジオ」や公式ＬＩＮＥを通して情報発信も行うなど、活動の幅を広げています。

起業したきっかけは？

中学3年生の時にビジネスコンテストに参加し、県内企業と高校生がつながりにくい現状を課題として感じました。

企業にヒアリングした際、取り組みに賛同してくれる方が多く、高校1年生で起業することを決めました。

メンバーは？

サポーターとして、山形大学の学生、後輩、友人の3人です。名刺のデザインや、高校生の探究のメンターとしてアイデア出しなど協力してくれます。他に、知り合いや、自分から声がけして集めた高校生が都度手伝ってくれます。

家族からのサポートは？

起業したいと話した時は、これといった反応はありませんでした。ただし、二つの約束事は必ず守るように言われました。お金を借りないこと、成績を落とさないことです。

それでも、家族は陰ながら応援してくれています。活動に必要なパソコンを用意してくれたり、ビジネスコンテストやイベントへの送迎をしてくれたりしています。

仕事を始めた最初の頃、やりたいことが多すぎてパンクしてしまったことがありました。そのとき、父に「なんでもかんでもできると思うなよ」と言われ、諦めることも大切だと学びました。父のおかげで、仕事に取り組む心構えを持てるようになりました。

起業前と後で変わったことは？

仕事の面では責任を持つようになりました。相手があることですので、迷惑をかけないように責任をもって成し遂げる、約束事を守ることは、仕事も勉強も大事なのは同じです。

学校では大きな変化はないです。あだ名が「社長」になったことくらいです。私が起業したことを友達は特別スゴイとも思っていないし、受け入れてくれています。いい意味で何も変わってないです。

印象に残っているエピソードは？

初めて企業を訪問し、仕事として大人と話した時の緊張は今でも忘れられません。慣れないメールで敬称をつけ忘れる失敗もあり、それ以来、送信前には何度も確認するようになりました。

休日にミーティングが続き、友達が自由に過ごす中で、「自分は休日なのになんで仕事しかしていないんだ！」とつらく感じたこともあります。それでも、イベントをやり遂げ、感謝の言葉をもらえた時には、この仕事をしてよかったと感じました。

Z世代と言われていますが？

違う世代の方が「Z世代」と呼んでいるだけであって、渦中にいる私たちは特に気にしていません。どの世代でも同じですが、デジタルだけでなく、人と人の対面でのコミュニケーションを大切にしています。直接顔を合わせることが一番大切だと思います。

起業や探究を通して学んだことは？

起業や探究を通して、山形には多くの面白い人がいることに気づきました。仕事を始める前は特に関心がなかったのですが、古民家のリノベーションや文化祭の運営など、地域を盛り上げようと活動している人が多くいることを知り、「なんて山形は魅力的なんだ！」と実感しました。

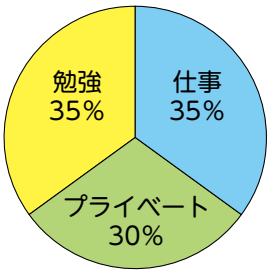
こうした人々と関わる中で、地域にはまだまだ学びや挑戦の余地があることを学びました。

高校生と社長の二刀流

勉強と仕事の両立が気になるところですが、平日の過ごし方を教えてください

朝～授業終了まで
4時30分～6時20分　勉強
7時00分～8時00分　登校
（電車で勉強）
8時30分～16時00分　授業
放課後
17時00分～20時00分　仕事
（学校の中か、近くのコワーキングスペースにて）
20時00分～21時00分　帰宅
（電車で勉強）
21時00分～22時30分
ニュースなどをチェック
（仕事の話題などを収集）
22時30分～22時45分　授業の復習
22時45分～　就寝
※23時には寝るようにしている

スタディ&ワーク・ライフ・バランスは？



ときどき仕事とプライベートの境目がわからなくなる時がありますが、どれも同じ割合でどれも重要です。高校生なので、勉強が崩れると仕事も崩れてしまうので、勉強が最重要です。試験前は「テスト休暇」という名の休みを取って勉強に集中しています。

スケジュール管理はどうしてる？

スケジュール管理には手書きの手帳を使っています。おすすめは「ほぼ日手帳」です。

月・週・日ごとに予定を書き出し、やるべきことと優先順位を整理しています。時間ごとに区切って管理することで、頭の中が整理され、行動しやすくなりました。学校ではスマホが使えないため、スケジュール管理は手帳が合っています。

また、先の予定が見えないと不安になるため、日曜の夜に一週間分の予定を細かく立てるようにしています。

これから

今後会社をどうしたい？

高校生がやっている会社だからこそ意義があると思っています。来年は受験生ですし、高校卒業後も続けるかどうかは迷っています。事業承継するか、閉業するか、休業するか―すべて選択肢にありますし、ぎりぎりまで迷いたいです。

夢は大きく　日本のリーダーになりたいそうですね？

私は医師の中村哲さんにとても影響を受けました。小学生の頃から本を読み、その活動から「物事を根本から変えていく」という考え方に心を動かされました。将来は日本のリーダーとして社会に貢献したいと思うようになりました。

現在、地方から若者が減少していることが課題となっています。地方と都市の双方に目を向けた取り組みが必要だと感じており、将来は政治の分野から地方の活性化に関わりたいと考えています。

そのためにも、まずは大学で幅広く学び、社会について深く考えていきたいです。

同世代、後輩へのメッセージをお願いします

勉強して知識があるだけでは足りないなと思うので、疑問を持っていろんなことに目を向けてほしいです。そうしないと、何を学びたいかが見えてこなくなると思います。私たちは、スマホで何でも調べられます。調べて、そして考えるということをしてほしいなと思います。

取材を終えて

高校生としてのメリットを存分に生かし、県内企業との相乗効果を生み出している森谷さん。目を輝かせて社長としてのビジョンを語るかたわら、ときおり高校生らしさも垣間見せ、これからの活躍も楽しみになりました。森谷さんは世界を見すえて「ジョージ」と名付けられたそうです。かの有名なアメリカ初代大統領もジョージですが、近い未来、山形のジョージが世界で大活躍することを心から応援しています。

（編集協力員　山下みどり）

まち、わたし、きらめく Women's Campus 山形

「まち、わたし、きらめく Women's Campus 山形」は、山形市が実施する女性人材育成事業です。働く女性が自分らしいキャリアや生き方を主体的に考え、地域や職場で力を発揮できるよう、段階的な学びや対話の場を通じて、自己理解やリーダーシップを深める機会を提供することで、女性の成長と地域の活性化を同時に目指す取り組みです。

今年度は、企業社員向けプログラムと女子高校生向けプログラムの二つを実施しました。企業社員向けでは、働く女性が自らのキャリアや役割を見つめ直し、職場や地域で力を発揮することを、女子高校生向けでは、将来の選択肢を広げ、自分らしい生き方や働き方を考えるきっかけづくりを目的としています。

企業社員向けプログラム







企業社員向けプログラムでは、講師として、元(株)資生堂副ＣＰＯで、現在は(株)グローバル・インサイツのストラテジックパートナーである芦田恵美子氏をお招きし、働く女性が自分らしいキャリアや役割を主体的に考える機会を提供しました。

プログラムでは、自己理解を深める振り返りや参加者同士の対話を通じて、自分の強みや大切にしたい価値観を整理しました。

さらに、リーダーシップやセルフマネジメントをテーマに、日々の仕事で活かせる視点や行動について考える場を設けました。参加者は互いの意見や経験を共有し、新たな気づきや学びを得ることができました。

女子高校生向けプログラム「Girl up! ミライ×わたしスタートアッププロジェクト」

女子高校生向けプログラムでは、「自分を知る」「社会とつながる」「未来を描く」を軸に、全４回のワークショップを実施しました。

若手女性社会人との対話や地元企業訪問、キャリアマップ作り、社会の第一線で活躍する方々との意見交換を通して、回を重ねる毎に、自身や社会、仕事への理解を段階的に深めていきました。

参加者からは「自分の軸を見つけられた」「将来を前向きに考えられるようになった」等の声が聞かれ、主体的に進路や未来を考えるきっかけとなりました。







令和４～６年度、この事業に参加した第１～３期生もメンバーを増やしながら活動を継続しています。
今年度は８グループが活動を行い、地域課題や女性活躍をテーマに積極的に活動しています。

グループ名	目的・内容
山形の魅力発見プロジェクト	若者に身近なＳＮＳを活用し、地元の情報を発信しているインスタグラマーの活動や価値観を紹介することで、若者が地元に誇りを持ち、「戻りたい」「住み続けたい」と思えるような関心や魅力を高めることを目的とする。
くるみ	婚活中の女性を対象に、ヨガや書くワークを通じて自分軸を取り戻し、自己肯定感を高め、ライフステージの変化に柔軟に対応できる力を育む。
KUKKA　MYSA	親子が共にリラックスできる居場所を提供することで、育児ストレスや孤独感を和らげるとともに、交流や学びの機会を通じて地域の子育てネットワークを強化する。
食を知り食を楽しむ ワークショップこめラボ	子どもたちが「家族のためにごはんを作る喜び」を体験し、食を通じて、家族のコミュニケーションを深める。
ラブマチyamagata	地元での出会いを提供する婚活イベントを開催し、さまざまな人と交流し、地元に根ざした暮らしを選ぶきっかけをつくり、山形からの若者の流出を防ぐことを目的とする。
ＹＭＦＲ.	結婚を希望する男性が理想の女性と出会い結婚につながるように、服装や、身だしなみを整えて、自信を高め、出会いやマッチングの成功を促す。
TeNenTo(てねんと)	女性ロールモデルの事例やストーリーをパネル展で紹介することにより、女性が直面する結婚・出産・キャリアなどについて、選択肢を広げるきっかけとする。
夢叶プロジェクト	夢を諦めがちな大人に向け、ロールモデルの事例や交流を通して自分らしい生き方や自己実現を考えるきっかけを提供し、地域の活力向上につなげる。

山形市では、引き続き活動を支援し、共に「女性が輝くまち山形」を目指してまいります。

男性の育児休業取得を応援しています
～育児は「共に育てる」時代へ～



【育児休業を取得した男性職員の声 ― 現場から見えた変化】

市公式ホームページでは、実際に育児休業を取得した男性職員と、その上司へのインタビュー動画を掲載しています。育児休業を取得した職員からは、「子どもの成長を間近で感じられた」「家事や育児の大変さを実感できた」といった声が聞かれ、育児に向き合う大切な時間になったことが語られています。

また、上司の立場からは、育児休業を取得することで「職場全体で業務を見直すきっかけになった」「チームで支え合う意識が高まった」といった前向きな変化があったことが紹介されています。

こうした実体験は、男性の育児休業が特別なことではなく、家庭や職場にとってもプラスになるものであることを伝えています。山形市では、実際の声を通して、育児休業への理解が広がることを期待しています。

市公式HP

【男性の育児休業取得を支える助成金のご案内】

育児休業の取得を後押しするため、国ではさまざまな助成金制度を設けています。事業主の皆さまが活用できる支援策も充実しています。詳細は厚生労働省のホームページをご覧ください。

両立支援等助成金

育児休業等給付について

山形市男女共同参画情報紙 ファーラ vol.65 2026年3月発行（年1回発行）●山形市企画調整部男女共同参画センター 山形市城西町二丁目2番22号 ☎023－645－8077 e-mail fala@city.yamagata-yamagata.lg.jp

令和７年度「男女共同参画に関する一行詩」審査結果

中学・高校の部　応募総数515作品

最優秀賞

「手伝う」じゃなく「一緒に」ね。

山形県立山形東高　本山　　想

優秀賞

誰かの『ふつう』に自分を合わせなくていい、
『自分らしく』選べる未来は
きっと誰にとっても生きやすい

山形県立山形東高　旭　　美羽

優秀賞

考え方の違い、文化の違い、すれ違うこともあるけれど、
「どちらもいいね」と認め合えたらいいのにな。

山形県立山形東高　渡辺　夢生

優秀賞

すべてを理解しなくていい
ちょっとずつ　ちょっとずつ
理解しようとする気持ちで
きっと世界が広がる

山形市立高楯中　安孫子真依

令和７年度
「男女共同参画に関する一行詩」
入賞作品の一覧はこちら



《編集後記》

私が最近注目しているのはビブリオバトル。2007年に京都大学から広まった読書会のことで、公式ルールにのっとり5分間で好きな本を思う存分紹介する知的書評合戦である。本好きの息子に中学生向けのビブリオバトルに出場してみないかと誘ったところまんざらでもなく、スラスラと原稿を書き上げてしまった。息子が選んだ本は『金の空想科学読本』。この本の魅力に何度親子で語りあったことか、息子の本のチョイスはさすがだった。発表の参考にと全国大会の動画を見てみると、すぐにビブリオバトルの虜になった。読書から遠ざかっていた私も今すぐ読みたい衝動にかられた。おかげで息子が読む、親が読む、語り合うのサイクルができ上がった。本を通じて人と人とのつながりを感じるビブリオバトルをみなさんにお勧めしたい。（編集協力員：山下みどり）

DNAの二重らせんを私が意識し可視化したのは５年前。体内に宿るその美しさに、一人一人が小さな宇宙を持つ存在だと感じた。柿﨑先生への取材を通して、生物学の奥深さや飛島発祥とされるサンゴ礁の話に触れ、人は無知から学び成長していく存在であり、性別を超えて皆平等な人間なのだと実感した。教育者として生物学の先駆けで光を放ち続ける柿﨑先生とのご縁に感謝し、次世代はもちろんのこと、私たち自身もまた光を放つ存在であることを再認識する機会となった。（編集協力員：大津　藤子）

●男女共同参画情報紙“ファーラ”は、以下の場所で配布しています。
男女共同参画センター「ファーラ」、市役所（１階刊行物コーナー・市民課待合フロア）、霞城セントラル内の市の施設、市の公民館、コミュニティセンター、市立図書館
●男女共同参画情報紙“ファーラ”は、インターネットでも見ることができます。（山形市ＨＰで「ファーラ」で検索してください。）
●読んだご感想・ご意見などがありましたら、ぜひお寄せください。お待ちしております。